

# 都市地域に生息するキジの分布と生態について

千葉県立柏中央高等学校 科学部  
3年 大平夢希

## 1. はじめに

本校周辺の柏市松ヶ崎地区では、春になると繁殖期を迎えたキジの姿を見たり、鳴き声を聞くことができる。しかし、国道16号や交差する国道6号などの大通りと住宅地に囲まれているこの場所の僅かに残る自然の中でなぜキジが生息しているのか、また、松ヶ崎地区はキジの生息地として適した場所であるのか疑問を抱いた。

本研究では松ヶ崎地区のキジ個体群の調査を行い、キジの行動や生息理由、生息環境について考察した。

## 2. 調査方法

キジの目撃情報の多い大堀川周辺を中心にラインセンサス法で目視にて調査を行い、キジを確認した場所や個体数を記録した。それをもとに「なわばりMAP」を作成し、大堀川周辺のキジ個体の調査とキジの生息環境の調査を行った。調査は2019年4月から8月にかけて行った。

「ラインセンサス法」… 調査範囲内にあらかじめ踏査ルートを設定し、その場所を一定速度で歩いて調査した。  
「なわばりMAP」… 大堀川周辺の植生図上に調査をもとになわばりのある場所を記したもの。  
今回はオスが同じ場所で何度も見られた箇所をなわばりとした。

## 3. 調査結果

大堀川周辺におけるキジの生息状況および「なわばりMAP」を以下に示す。

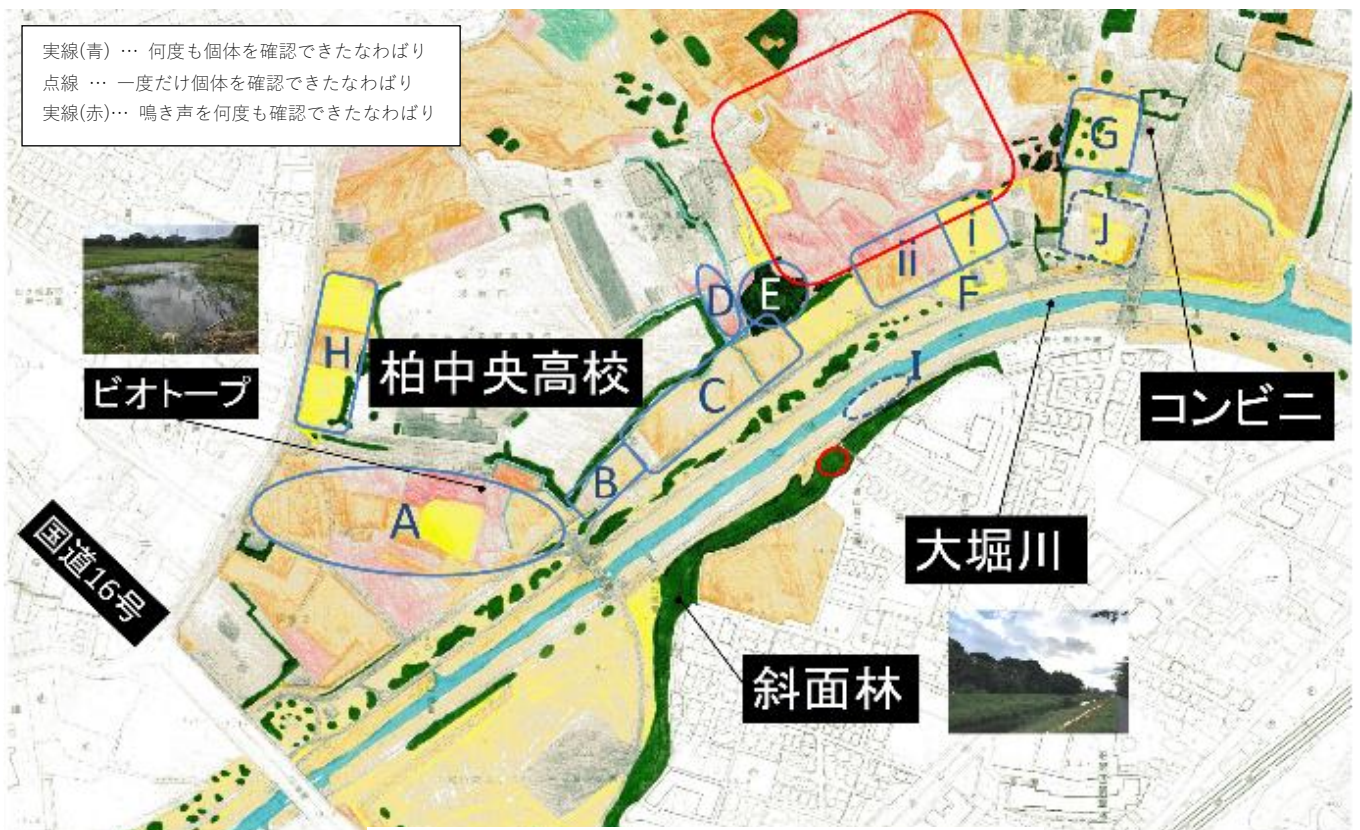


図1 なわばりMAP (植生図は 小島 2018 を改変)

表 大堀川周辺のキジの生息状況 (◎ … なわばり付近を流れる用水路の近くで姿が確認されたことを示す)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
4月11日	♀×3										
13日					♂×2、♀×1						
20日	♂×1、♀×1				♂×2、♀×1						
23日	♂×1			♂×1、♀×1		♂×1					
26日	♂×1、♀×1			♂×1、♀×2							
27日	♂×1、♀×2		♂×2	♂×1、♀×1							
5月2日	♂×1				♂×1						
5日		♂×1	♂×1、♀×1		♀×1	♂×1		♂×1			
8日	♂×1	♂×1									
11日				♂×1		♂×1			♂×1		
13日	♂×1、♀×1	♂×1、♀×1		♀×1		♂×1					
14日		♂×1		♂×1、♀×2							
	A	B	C	D	E	F-i	F-ii	G	H	I	J
15日	♂×1			♂×1		♂×1	♂×1	♂×1、♀×2◎			
6月5日			♂×1			♂×1		♀×1			
6日			♂×1、♀×1◎			♂×1、♀×2		♀×3			
8日	♂×1	♀×1	♂×1、♀×1◎				♀×2	♀×3			
11日			♂×1、♀×1◎					♂×1、♀×2			
13日	♂×1		♂×1、♀×1◎			♂×1		♂×1、♀×1			
14日	♂×1、♀×1、ヒナ×1		♂×1、♀×1◎			♂×1		♀×4			
18日			♂×1、♀×1			♂×1		♂×1、♀×3			
19日	ヒナが迷い込む										
22日	♂×1、♀×1								♂×1		♂×1、♀×1
24日			♂×1、♀×1				♂×1、♀×1	♂×1、♀×2			
26日			♂×1				♂×1、♀×1	♀×2			
7月10日							♂×1				
19日	♂×1、♀×2					♂×1、♀×1		♂×1、♀×1			
22日	♀×1		♂×1			♂×1、♀×1		♂×1、♀×1			
28日								♂×1、♀×1			
8月7日					♀×1			♀×1◎			
8日								♀×1◎			
9日	♂×1										

《キジの確認状況》

- ・ A～J (Fは途中で2カ所に分けた)の11カ所のなわばりを確認することができた。
- ・ Aのなわばりでは4月～8月の長い期間でキジの姿を確認できたが、その他のなわばりでは約1ヵ月～2ヵ月の短い期間でしか姿を確認できなかった。
- ・ A～Cのなわばりでは草刈りがされるとキジが姿を隠せる高さに植物が成長するまでのしばらくの間、キジの姿は確認できなかった。
- ・ Gのなわばりは人の出入りが多いコンビニエンスストアの裏にあるにも関わらず、6月～7月にかけてほぼ毎回キジを確認することができた。また、このなわばりでは、他のなわばりよりも多くのメスが確認された。
- ・ I、Jについては確認回数が少なく、なわばりの状況はあまり把握できなかった。
- ・ なわばりのある場所の多くは近くに用水路やビオトープなどの水場があった。



図2 草地のキジ(オス)

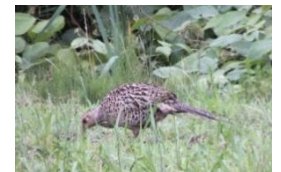


図3 草地のキジ(メス)

4. 考察

(1) 生息環境について

調査をした狭い範囲でも多くのなわばりが確認されたことから、かなり多くのキジが生息していることが分かった。このことから、この地域にはキジが生息する環境が残っていると考える。また、調査して得られたなわばりの共通点より、キジは特に次のような場所になわばりを作ると考えられる。

- ① 湿地植生、空き地の高茎草本植生、低茎の踏跡植生
- ② キジが身を隠すことができるくらい背丈のある茂みが広がっていたり、低木がまばらに生えている
- ③ 用水路や雨水が常に溜まっているような水場が近くにある

図4は本校周辺の緑地の変化を示したものである。手賀沼が近くにあるこの場所の多くは、元々緑地が広がるキジに適した生息地であった。しかし人間の手加わることによって、徐々にキジの生息域は狭まっていった。その結果、キジは現在残った数少ない自然の中でも生息するのに適した環境、つまり、松ヶ崎地区周辺を生息場所や繁殖場所にするようになったのではないかと考える。



図4 キジの生息地としての緑地の変化 (着色部分が森林)

## (2) キジの子育てについて

一般的に、キジのオスは抱卵や育雛などといった子の世話をしないとされている。しかし、調査をしていく中ではぐれたヒナにつがいが近寄る行動が見られたり、メスが抱卵するような仕草(砂浴びをしていた可能性もある)を見せたときに近くでオスの姿を確認することができた。このことから、オスも何らかの形で子の世話に関わったり、子の世話をするメスの護衛を担っているのではないかと考える。



図5 キジのつがい  
(手前：メス 奥：オス)

## (3) キジと人間の関わりについて

調査期間中、キジの母鳥が車にはねられるという事故があり、これについて本校の近隣の方から次のような詳しい話を伺うことができた。

6月19日、ヒナを連れた母鳥が本校前の道路を渡っていたところ、数羽のヒナが側溝に落ちてしまった。それに気づいた母鳥は自分の子を心配するもどうすることもできず、道路を行ったり来たりとしていたところ、自動車にはねられてしまい命を落とした。ヒナたちはのちに無事救出された。



図6 キジのヒナ

また、これ以降の調査の際、事故現場周辺でヒナの姿を確認することが増えた。

今回のようなキジと人間との事故は昔から多く発生しており、畑に巣があるのに気づかず、草刈りの際に抱卵中のメスを傷つけてしまうこともあるそうだ。これらの事故にはいくつかの原因が考えられるが、そのひとつとしてこの地域にキジなどの生き物が生息しているということがあまり知られていない可能性があるためと考えられる。また、この辺りは国道の抜け道があり、車通りが多いことも一因であると思う。これらの事故を防ぐ対策としては、キジの生息や飛び出しを知らせる看板を設置するなどが挙げられる。

## 5. まとめ

道路などの人工物が増えたことにより、キジの生息域が狭まり、キジと人間との事故も発生するようになった。人間とキジが共存していくためには、この場所にキジが生息しているということを認知した上で、残された生息地を保護していくことが大切なのではないかと考える。

## 6. 今後の展望

キジの個体識別を行い、なわばり範囲やつがいの行動範囲を明らかにしたい。また、営巣場所や繁殖期・非繁殖期の行動についても詳しく調べていきたい。

## 7. 参考文献

- ・鈴木藤蔵. 2002. 『No.45 自然誌 本編6：千葉県動物1－陸と淡水の動物－』. P.777-P.780
- ・川上和人, 林暁央. 2018. 『BIRDER』 第32巻第3号(通巻374号)「特集 生態図鑑 キジ科の鳥たち」. P.16-P.19
- ・小島星寿. 2018. 「柏市松ヶ崎地区(大堀川周辺)の植生及びチョウ類相の食草との関係」(千葉大学高校生理科研究発表会ポスター)